

# たきざわ通信

春日部市議会議員  
滝澤 英明

URL: [www.takizawa-hideaki.jp/](http://www.takizawa-hideaki.jp/)

たきざわ英明後援会事務所 〒344-0063 春日部市緑町 6-14-34 TEL・FAX 048-736-7832



## ご挨拶

皆様には日頃より大変お世話になり感謝申し上げます。

さて、本年6月より市議会最大会派「新政の会」の幹事長の重任を仰せつかりました。市民の皆様が春日部市に住んでいて良かった、これからも住んでいきたいと思えるような、健康で安全で安心、快適に暮らせる魅力的な街づくりに微力ながら全力で取り組んでいるところです。

今後も皆様の声を広くお聞かせいただき、市政に反映して参りたいと考えております。

また、私ごとではありますが、平成24年8月1日より母校である、東京薬科大学附属社会医療研究所教授に任命されました。本格的活動は来年度からになります。

## 「春日部市立病院再整備基本設計」の進<sup>しんちよく</sup>捗状況について

市立病院の再整備は、平成24年度に基本設計、平成25年度に実施設計及び建築に向けた各種申請手続き、平成26～27年度に、建設工事並びに周辺道路の整備を進めて、平成27年度中の竣工を目指しています。

現在の進捗状況は、基本設計図面のベースとなるブロックプランの作成を進めています。このブロックプランは、外来部門、手術部門、検査部門などの各部門をどのように配置していくかを患者動線、医療スタッフ動線、物流動線などを考慮しながら、決めていくものです。

いわゆる病院の骨格を作る作業であり、市民の皆様が新しい病院を受診する際に、わかりやすく効率的に治療や検査が受けられるようにしていくための重要な計画です。

今後の議会で進捗状況についての中間報告が予定されていますので、しっかり内容を確認し、必要な意見を言っていきたいと考えております。

また、敷地内の施設配置を決めていく施設配置計画、空調設備・給排水設備などの設備計画及び外構植栽計画も順次、検討が進められています。今後は概算工事費の算出と併せて調整を行い、3月末には基本設計が完了した後に市民の皆様へ新病院の概要について説明する機会を設けさせて頂く予定です。



## 定例議会一般質問

H24年6月

### 1.一ノ割駅周辺地域の整備について

- (1)これまでの一ノ割駅周辺整備の取り組み経過について
- (2)過去の計画での位置づけについて
- (3)都市計画マスタープラン、まちづくり条例、景観計画などとの関連について

### 2.市立病院再整備基本設計について

- (1)契約締結までの経緯について
- (2)今後のスケジュールについて
- (3)設計にあたっての検討体制について
- (4)市立病院が基本設計事業者に期待すること

H24年9月

### 1.県立小児医療センターの移転について

- (1)移転について、市ではどこまで把握しているのか
- (2)市立病院としては、どのようにとらえているか
- (3)新病院建設計画への影響は
- (4)市全体の取り組みとしてどのように考えるか

### 2.平成24年産県産米の放射性セシウム調査について

- (1)今回の県の実施計画はどのようなものか
- (2)市の対応について



政府の「高齢社会白書」によると、日本は総人口が減少する一方で、高齢化率は今後も上昇する見込みです。1947～49年生まれの「団塊の世代」がすべて65歳以上となる2015年には高齢者人口は3000万人を超える見通し。2055年には高齢化率は40.5%（75歳以上は26.5%）に達し2.5人に一人が65歳以上、4人に一人が75歳以上となります。60歳以上の人に同居の家族を含めてどの程度会話するか聞いたところ、全体の9割以上が「毎日会話している」と回答した。世帯構成別にみると1人暮らし男性の41.9%、女性では27.8%が「2～3日に1回以下」と、単身世帯では会話の頻度が極端に少ないとのことです。

高齢者の社会的孤立を防ぐには、ボランティア活動など高齢者の「居場所」や「役割・仕事」を生み出すことが重要です。春日部市として、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように在宅福祉サービス等の充実、高齢者の見守り体制の充実、相談体制の充実させることが急務であります。

春日部市高齢者人口と高齢化率の推移と推計 単位：人・%

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総人口	240,510	240,707	240,769	240,394	239,924	239,352	238,676	237,874	236,951
65～74歳	32,880	33,538	33,636	35,427	36,988	38,654	39,182	38,892	38,258
75歳以上	16,711	18,040	19,484	20,923	22,382	23,604	25,369	27,389	29,381
65歳以上	49,591	51,578	53,120	56,350	59,370	62,258	64,551	66,281	67,639
高齢化率	20.6	21.4	22.1	23.4	24.7	26.0	27.0	27.9	28.5

## 春日部市の財政

平成23年度決算における本市の財政状況については、国が定めた財政健全化判断基準において条件を満たし、安全な範囲にあります。しかし財政構造の弾力性を示す経常収支率においては、90%を超える年度もあり、新たな行政需要に柔軟に対応することが難しい状況になりつつあると考えています。また、景気の低迷、人口の減少、少子高齢化の進行等により今後は市政等の収入が減少することや、社会保障関係費がますます増大することが予想されますし、市立病院の再生備など、大きな事業も実施が予定されていますので、中長期的な展望を踏まえ堅実な財政運営するよう、議会としてもチェックしていきます。

区 分		23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
財政力指数		0.783	0.803	0.827	0.822	0.799
実質収支比率(%)		5.6	4.6	4.2	2.6	4.6
義務的経費比率(%)		52.8	53.9	47.7	51.7	53.8
実質公債費比率(%)		10.5	11.5	12.5	13.0	13.6
将来負担比率(%)		55.8	81.8	103.0	121.9	144.0
地方債現在高(千円)		62,652,072	60,201,219	59,786,747	59,518,616	60,949,731
積立金 現在高 (千円)	財政調整基金	2,370,661	1,319,462	300,595	851,706	627,425
	減債積立金	602,406	601,733	1,725	301,228	100,775
	その他	5,136,078	2,506,584	840,383	931,252	878,852
市町村税徴収率(%)		90.4	89.9	89.9	90.4	91.0
経常収支比率(%)通常		90.9	88.9	94.2	94.1	93.0

### 【指標の解説】

#### ■財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。この指数が高いほど、財源に余裕があると言える。なお、税収等が豊かで普通交付税の交付を受けない「不交付団体」は、この指数が1を超えることとなる。

#### ■実質収支比率

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいう。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額(形式収支から繰越すべき財源を差し引いたもの)、つまり市町村の「黒字」または「赤字」を意味します。一般的には、3～5%程度が望ましいとされている。

#### ■義務的経費比率

法令やその性質により、支出が義務付けられている人件費、扶助費、公債費の歳出総額に占める割合をいい、数値が高いほど財政が硬直化していることを示す。

#### ■実質公債費比率

実質公債費比率とは、公債費による財政負担の度合いを判断する指標の一つである。この比率が18%以上の場合には、起債に許可を要することとなり、25%以上の場合には、一部の事業債の起債ができなくなる。

#### ■将来負担比率

将来負担比率とは、市債や将来支払っていく可能性がある負担等の現時点での残高を指標化したもので、将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示した指標である。この比率が350%以上になると「早期健全化団体」に指定され、財政健全化に取り組むこととなる。

#### ■経常収支比率

財政構造の弾力性を判断する指標であり、人件費・扶助費・公債費等の経常的経費に地方税・普通交付税等を中心とする経常的一般財源がどの程度充当されているかを表す比率である。比率が低いほど弾力性が大きいことを示しており、一般的には、80%以上になると弾力性を失いつつあるとされている。



## 活動報告の一部



今年3月11日に春日部商工振興センターで「たきざわ英明市政報告会」を行いました。多くの皆様にお集まり頂きました。ご参加くださった皆様方へ心から御礼を申し上げます。

アトラクションとして津軽三味線の「北村姉妹」に出演して頂き、姉妹が可愛く演奏も見事で皆様から大変素晴らしかったと好評でした。



10月16日山梨県北杜市<sup>馬く</sup>へ「メガソーラー発電事業」の視察に行つて参りました。地球温暖化による気候の変化により世界規模での対策が求められている今日、石油に替わる新たなエネルギー源としての太陽光発電への期待が高まっています。北杜市は、日本でもっとも日照時間が長いとのこと。経済産業省及び新エネルギー産業技術開発機構による「新エネ百選」に選定されております。春日部市においても、本年度ご家庭において、温暖化防止の活動を進めていくため、住宅用太陽光発電設備の補助制度として3000万円の予算がございました。補助金額については、太陽電池パネル1キロワットあたり2万5千円です。太陽光パネル3.5キロワットの設備を設置した場合の試算をすると、春日部市からは8万7千円の補助、国からは、12万2500円、県からは、5万円の補助があり、補助金の合計額は25万9500円になります。



6月の田植え



10月の稲刈り

10月6日JA南彩主催「小学生・保護者稲刈り体験」に顔を出させて頂きました。

一家族で、ひとつカマを持ち「いなほの会」の関根会長の指導のもと、親子で楽しく成長した稲を刈っていました。

稲刈りの他にも、田んぼにはイナゴや、カエル、カマキリなどが沢山現れて、子供たちは自然との触れ合いに喜んでいました。

昼食後は、「稲藁リース」の作り方を教わり皆さん熱心に作成しておりました。リースは記念品として子供たち、親御さんたちの楽しかった一日の良い思い出の品となったことでしょう。